

○議長（長澤健君）

通告4番 3番 笹本壽彦君の一般質問を行います。

3番 笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

それでは、早速ですが質問事項として通告いたしました、道の駅富士川に建設中である農産物加工場および加工販売施設について伺います。

まず質問要旨1から伺いますが、道の駅富士川農産物加工場増築他改修工事においては、基本設計316万円。実施設計721万円。増築改修工事管理業務323万5千円。建築主体工事1億7853万円。プレハブ冷蔵庫ほか厨房機器約4千万円。バウムクーヘンほか厨房機器等の購入として3937万円。合計では約2億7千万円を超える大きな投資でございます。6月議会において、秋山仁議員の質疑に対し、前町長が道の駅の令和3年度の事業計画の中に、4年度以降、バウムクーヘン事業があり、予算関係はまだ出ていないが、国庫補助金を使いながらやっていく。その中で計算として約1億円程度の売り上げを見込んでいると、そのように答弁しております。製造場所も着々と進んでおりますが、現時点でのバウムクーヘン製造販売の売上目標と根拠を伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。道の駅富士川のバウムクーヘン店舗の売上は、年間約8千万円を見込んでおります。根拠としまして、道の駅富士川の売店における客数の15%が、バウムクーヘン店舗に立ち寄っていただくことを想定しており、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、客数等が参考とならないことから、令和元年度の客数約30万人の15%である4万5千人の立ち寄りを見込んでおります。

また、過去の実績に基づいて、地元客と観光客の割合や1人あたりの商品買い上げ率等を基に算出し、想定の商品単価を1800円程度としたところであります。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。今、年収約8千万円を見込んでいると。単純計算で月商600万円から700万円となりますが、この金額を出すに当たって、どのような施設、販売所を参考に、どのようなマーケティングを行って、この目標額が算出できたのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。施設にしましては、何店舗かのバウムクーヘンの店舗の商品を参考に算定をいたしました。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

複数の町民の方々から質問されるのですが、そもそも何がきっかけでバウムクーヘンの製造を行うというふうに出てきたのか。なんか唐突に、富士川町とは関係がないバウムクーヘンがポンと出てきたような、そういう感覚を受けるのですが、何がきっかけでまずバウムクーヘンをとということになったのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

何がきっかけでバウムクーヘンの製造を行うことになったのかということなんですけれども、道の駅が今年で7周年を迎えるに当たりまして、主力となる小麦まんじゅう、ねじり菓子等以外に新しい商品などを考えるに当たりまして、バウムクーヘンとしました理由の一つとしまして、現在、非常に人気がありまして収益力も高いということが挙げられます。また、以前から栃木県茂木町にあります「道の駅もてぎ」では、古米やゆずを使ったバウムクーヘンが人気であるため、その道の駅もてぎや、他にもいろいろと参考にしながら、新たな事業として地域食材を生かし、バウムクーヘンを作るところを見せながら販売をする店舗ということで行うことといたしました。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

バウムクーヘンの人気が高まっていて収益率も高い。確かにそのような傾向にあるようなことは存じております。滋賀県においては、滋賀県民に自慢できるものは何だと言ったら、琵琶湖とバウムクーヘンだというくらい、そういう大変すばらしいバウムクーヘンを作るところがあるそうです。しかしですね、ここの狭い地域においても、その人気があつて収益率も高い、しかしライバルも増えているんですよ。今や全国区になった、名前は申し上げませんが県内大手菓子メーカーが、長野県小海町に実演販売する新店舗を造りました。また、過日はこの地域の新聞販売店が、甲斐市のバウムクーヘン専門店の製品を宅配お届けしますという広告を新聞全部に折り込みました。当然、ライバル他店と

の競争に、道の駅が作るバウムクーヘンも、その競争に立ち向かっていかねばならない、そういう心配になります。独自の魅力を打ち出すための方針、対策。こんなにすばらしいバウムクーヘンだよ、よそには負けないよというような対策を考えているのか伺います。

○議長（長澤健君）

笹本議員、これは（２）の質問でよろしいですか。

○３番議員（笹本壽彦君）

はい。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

道の駅富士川に、現在建設中でありますバウムクーヘン店舗の商品につきましては、地産地消にこだわり地元の素材を使ったものとしております。そのため材料には、棚田米を自家製粉して商品に使用するとともに、ゆずや卵など富士川町で生産されたものにこだわり、町の農産物や特産品をPRしながら、ここでしか買えない、味わえない町の魅力が詰まったバウムクーヘンを提供することとしております。

また、店舗の中に、バウムクーヘンを焼く製造工程が見られるコーナーがあり、訪れたお客様に記憶に残るサービスが提供でき、他店との差別化が図られるものと考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○３番議員（笹本壽彦君）

おっしゃることはよくわかります。それから、作る工程を見せながら販売するという手法は、先ほど私が申し上げた小海町の大手の販売所も、甲斐市のバウムクーヘン専門の販売所も、作る工程を見せている。ですから、それはもう当たり前。ですから、今はもう一般的な状況なので、さらに、知恵をふり絞っていただきたい。そうしないと地域間競争でもあり、すごく心配になります。これは質問ではありません。

質問要旨３に移ります。道の駅富士川において、小麦まんじゅうはとても人気のある商品だそうです。今回、厨房機器だけで約４千万円、このような大きな投資を行っております。現在の小麦まんじゅうの年間売り上げが約８００万円前後。ねじり菓子の年間売り上げが約７００万円弱。両方で年商が約１５００万円です。先ほどの施設とこの厨房機器だけでも、この小麦まんじゅう、ねじり菓子では投資金額には全く見合わない。これが普通の企業の考え方です。新工房での小麦まんじゅうとねじり菓子の売上目標があれば伺います。

○議長（長澤健君）

他の新製品の予定があるか何うという質問ですよ。

○3番議員（笹本壽彦君）

次に行きます。

○議長（長澤健君）

今、他の製品の予定があるかという（3）の通告でいいですか。

○3番議員（笹本壽彦君）

質問要旨3に移っています。

○議長（長澤健君）

（3）なので、他の製品の予定があるかという質問でいいですか。

○3番議員（笹本壽彦君）

順序を変えます。小麦まんじゅうとねじり菓子の売り上げでは、設備投資の金額に見合わないと考えます。先ほど言った数字ですね。そうすると、今度の新しい工房では売り上げを伸ばすために、他の新製品を開発して販売する予定はあるのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問で、他の新製品の予定ということで、ご質問にお答えいたします。道の駅富士川の主力商品であります小麦まんじゅうとねじり菓子の年間売上げの合計額につきましては、先ほど議員さんがおっしゃられました数字に近いもので、令和元年度は1490万余円で、令和2年度は1380万余円でした。今回、新たに加工所を道の駅富士川に整備することによりまして、これまで片道約キロかかる商品運搬にかかるロスや、販売におけるチャンスロスの解消、商品管理が容易になることから売上の増加が見込めます。また、加工所には商品開発できるスペースを整備しまして、地域で収穫された果物や農産物を活かした新たな看板商品の開発をしながら、製造、販売を一貫して行う予定でございます。

なお、イベント等での販売では、賞味期限の長い商品が適していることから、焼き菓子などの気軽に食べられる商品の製造を検討しているところであります。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

そうしますと、この小麦まんじゅう、ねじり菓子ほかの製品の販売に関しては、バウムクーヘンのように年商8千万円というような明確な目標は、まだ

定まっていないということで理解してよろしいでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。議員さんのおっしゃるとおり、小麦まんじゅう、ねじり菓子につきましては、それぞれの売り上げ目標につきましては制定をしております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

前町長もほかの議員も、小麦まんじゅうとかねじり菓子がとてもいいというふうな、売り上げも上がっているということを、答弁なり意見なりでおっしゃっていましたが、これは個人的な感想ですが、小麦まんじゅうにしてもねじり菓子にしても、特別な特徴があるとは思えないのです。これは個人的な感想ですが。例えば、地元の小麦や小豆を使っている。無農薬のものを使っている。特別な砂糖や油を使っているとか、そのような売りがないと、名産・特産としては弱いし、先々、売上は先細っていくと心配になります。何か、その特徴を打ち出すようなことを考えておられるか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。道の駅富士川の売り上げ上位であります小麦まんじゅうやかねじり菓子につきましては、保存料が入っていないため賞味期限を短く、素材そのものの味を感じることができ、昔から変わらない素朴な味であることが、お客様に好評であると考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

そのような好評なというか、打ち出すべきものがあるのならば、道の駅富士川の売り場にも、ドンとわかりやすく表示したらいいと思います。私が見た感じでは、小麦まんじゅうはこうですよ、ねじり菓子はこうですよというふうな、特徴を打ち出すポップなどが無いのです。ですから、物を売るのであれば、これを売りたいというのであれば、この特徴を打ち出したり、こういうふうにお得ですよとかというような特徴を打ち出すポップなどを、道の駅に出すように指導できませんか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします、現在表示をしていなくても売り上げが上位となっておりますので、さらに売り上げが伸びますように、道の駅富士川とも話し合いをしたいと思います。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

ぜひ、どんどん売れるような工夫を頑張ってくださいと思います。

再質問です。小麦まんじゅう、ねじり菓子の賞味期限が2日ほどだと先ほどおっしゃいました。新しい工房で製造した場合には、賞味期限とか消費期限、これは延長できるようになるのでしょうか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

小麦まんじゅう、ねじり菓子の消費期限の延長は考えてはおりません。ですが、新商品に関しましては、焼き菓子のほかに脱酸素剤、エージレスというものを利用することで、消費期限の長いものが製造可能であると考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。これだけの設備投資をした工房になるわけですから、当然、製造の生産能力が向上すると思いますが、ほかへの出店とか卸業務とか、そういうことは考えて、売上を伸ばすために、投資金額を回収するために、そういうほかへの出店、卸業務とかということは考えていないのか、伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

新たに導入をする菓子製造機の包餡機によりまして、生産能力が格段に上がると考えておりますので、現在、他への出店や卸に含めたものについては今のところ考えてはおりません。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

先ほど少しおっしゃいましたが、個人的な感想ですと、小麦まんじゅうとねじり菓子が主力であれば、この投資金額を回収するには非常に困難が伴うと

思います。それ以外の新製品の予定があるのか、どのような方向で新製品を、

○議長（長澤健君）

笹本議員、これは先ほど（3）で答弁をもらっていますが。

○3番議員（笹本壽彦君）

予定を伺います。

○議長（長澤健君）

先ほど（3）で答えています。

○3番議員（笹本壽彦君）

再質問です。新製品を開発して作っていくと。失礼な言い方ですが素人ですよ。道の駅の職員にしても、新しい機械を入れればいいというものじゃないじゃないですか。そこで、町内の菓子製造者で、ケーキとかパンを製造しているような方々の知恵とか腕をお借りして、注力して、オール富士川として、新製品を開発、販売するようなことは考えられませんか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。道の駅富士川では、町内の製造者との新製品の開発や販売は考えておりません。また、新商品の開発につきましては、他店との差別化を図りまして、個人の店舗が努力をされている町内の菓子店舗と競合しないような商品にしたいと考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

普通ですね、これだけの大きな投資をして、新しいことに挑戦するというのであれば、人のことなんか考えていませんよね、普通は。自分のところの売り上げをいかに伸ばすかということを考えなければならない。そうしますと、例えば小麦まんじゅうに力を入れれば、道の駅の中には別の業者が塩まんじゅうがあったり、酒まんじゅうを売っていたりするわけですね。どんなにまんじゅうが好きな人でも、これも買って、あれも買って、このまんじゅうも買ってということはならないですよ。ということは、ほかの店のことを考えてなんかいられないはずですよ。そうしないと、結局、この道の駅富士川にとって初めての製造直販となるわけですよ。厳しい言い方になりますが、先ほども言いましたが、素人が集まって失敗するのではないかという声が、これは私個人ではないです、いろいろ大勢の人から聞こえてきます。そういう対策を考えて、真剣に、集中してやっついていかないと、素人がこんなことやっつてと言われることになってしまいます。ですから、どのような、一番大きな出資元として、道の

駅富士川を指導していくのか伺います。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまのご質問にお答えいたします。道の駅富士川ではこの新商品とバウムクーヘン製造につきましては、今月も県外に研修へ出向くなどしまして、新商品についての検討を進めているところであります。また、バウムクーヘンにつきましても、開店までには職員のほうに研修を何回か行うということをお願いしておりますので、指導については今のところ、それになります。以上です。

○議長（長澤健君）

職務代理者 齋藤靖君。

○職務代理者（齋藤靖君）

道の駅富士川での新商品の開発についてのご質問をいただいているところでありますが、先ほど課長が答弁しましたとおり、議員もご承知かと存じますが、株式会社富士川は町が出資した法人でございます。道の駅富士川ではいろいろな店舗のお店の商品も扱わせていただいているところでありますが、町が出資している法人が、個店が努力をされている商品を脅かすようなことがあってはいけないという考えは基本的に思っているところであります。また、小麦まんじゅうとかねじり菓子の話も出ました。これ古くは、平成9年、つくたべかんがオープンしたときに、十谷地区で作られていた素朴な味、小麦まんじゅうとねじり菓子を商品として扱ってきたということで、もう24年に及ぶロングセラーとなっております。これは何で人気があるかといいますと、やっぱり素朴な味、田舎の味の素朴さが出ているということで、リピーターが多く来ているということでありますから、このロングセラーの商品を、より近くで作って販売できるということは売り上げにつながっていくというように考えております。これに加えて、さらに新商品を開発していきたいということでございますので、バウムクーヘンについても、見せて売るといふ、しかも、あの甘い香りが店内いっぱい広がれば、来ていただく方、15%以上の方がお買い求めいただけるんじゃないかなと予測はしているところでございますから、今後も株式会社富士川と話をする中で、より良い商品が開発できるように努力して参りたいと考えております。以上です。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

私が申し上げているのは、合計で2億7千万円以上の投資をするわけです。小麦まんじゅうもねじり菓子も、郷愁を誘うようなもので、長年作っていつて

人気があると。わかります。ただ、人気があるのはどこのレベルなんだということなんです。売りに見合わなければ、懐かしい、郷愁だけで終わってしまう、それを私は心配している。だから、その新しい工房で、ああもこうも売りに上げを伸ばすことを考えていただいきたいと申し上げているわけです。最後に、一つだけお聞きします。前町長が、国庫補助金を使いながらやっていると答弁されております。これ6月の議会ですね。この施設での2億7千万円に対して、現在進行中のこの加工施設にあてがわれる国庫補助金の見込み額がわかれば教えてください。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

ただいまの国庫補助金の見込み額というご質問にお答えいたします。今回この道の駅の工事、あと平林の農村宿泊施設と合わせたものでございますが、農山漁村振興交付金というものを利用しています。本年7月5日に交付決定をされました内示額につきましては、その全体としまして1億4700万余円でございます。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

確認ですが、この道の駅の施設も完成した。平林の宿泊施設も完成した。そのあとで補助金が来るわけですね。その見込み額が、全部で1億5千万円弱と理解すればよろしいですか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

今、お答えしました金額につきましては、まだ内示でありますので、実施設計、完了しまして、実施の実績報告を国のほうに出した後に確定がするものと考えております。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

そうすると、この補助金が思ったよりこなかったというようなことも、そういう心配もありえるということでしょうか。

○議長（長澤健君）

産業振興課長 遠藤悦美さん。

○産業振興課長（遠藤悦美さん）

今、工事中でございますので、その中で変更等があった場合は金額が増減することもありますので、それでこの金額が確定ということではございません。

○議長（長澤健君）

笹本壽彦君。

○3番議員（笹本壽彦君）

先ほども言いましたけれども、この大きな投資をしているわけです。民間であれば、とてもじゃないけど投資できない金額です。この菓子で。多くの方が心配しているのが現実です。町民でも。国庫補助金といえども国民からの税金です。絶対に成功するように道の駅富士川と、綿密な指導・監督をしながら、ぜひ成功するような施設にもって行っていただくようお願いいたします。以上終わります。

○議長（長澤健君）

以上で、通告4番 3番 笹本壽彦君の一般質問を終わります。